

注意報発令が引き続き減少

昨年夏の光化学スモッグ発生状況

東京都まとめ

東 京はこのほど、平成29年夏季(4月～10月)における光化学スモッグの発生状況をまとめ、発表した。それによると、光化学スモッグ注意報の発令日数は6日で、過去10年間の平均発令日数12.1日を大きく下回った。また、光化学スモッグによると思われる健康被害の届出者はなかった。

光化学スモッグは、自動車や工場などから排出される窒素酸化物、揮発性有機化合物(VOC)が夏

の太陽の強い紫外線により光化学反応を起こして発生する。都内41地点で測定している光化学オキシダント濃度が、注意報の発令基準の0.12PPm以上となった延べ日数、延べ時間数は近年減少傾向にあり、高濃度が長時間、広範囲で続くことは少なくなっている。

東京都は、2020年度までに光化学スモッグ注意報の発令日数をゼロとする「2020年に向けた実行プラン」に取り組んでおり、これら原因物質の排出抑制対策を進めている。具体的には①VOC対策セミナーなどの開催、②ホームページやタブロイド版広報誌の「広報東京都」、環境局SNSを通じた都民への普及啓発、③近隣市と連携したVOC排出抑制対策の普及啓発の実施、④光化学スモッグの一層の改善を図るための調査研究——などだ。

〔東京都自動車会議所〕

訃

トヨタ自動車元社長
日本自動車会議所元副会長
日本自動車工業会元会長

豊田 達郎氏

トヨタ自動車元社長で、日本自動車会議所副会長、日本自動車工業会会長を務められた豊田達郎氏が2017年12月30日、逝去された。88歳だった。トヨタ自動車創業者の豊田喜一郎氏の次男で、同社元社長・現名誉会長の豊田章一郎氏は兄、現社長の豊田章男氏は甥にあたる。

豊田達郎氏は、大学卒業後の1953年4月、トヨタ自動車の前身であるトヨタ自動車販売に入社。主に海外畑を歩み、1984年2月、米国進出の足掛かりとなった米ゼネラル・モーターズとの合弁生産会社「ニューユニテッドモーターマニュファクチャリング(NUMMI)」の初代社長に就任。北米市場開拓の陣頭指揮を執られ、軌道に乗せた。

1986年9月専務、1988年9月副社長を経て、1992年9月に社長に就任され、日米自動車摩擦の対応に尽力された。1995年8月に副会長に就任、1996年6月には相談役に退かれ、逝去されるまでは顧問を務められていた。

同社社長時代の1994年5月から1995年5月まで日本自



報

自動車工業会会長に、1994年6月から1995年6月まで当会議所副会長、逝去されるまでは顧問に就かれていた。トヨタ財団名誉会長、日本自動車教育振興財団最高顧問なども務められ、自動車業界やトヨタグループの発展に多大な貢献をされた。



マツダ元社長
(当会議所会員元代表者)

山本 健一氏

マツダで社長、会長を務められた、名誉相談役の山本健一氏が2017年12月20日、逝去された。95歳だった。

山本氏は大学卒業後、海軍を経て1946年2月にマツダの前身である東洋工業に入社。1963年4月ロータリーエンジン(RE)研究部長に就任され、技術開発を指揮、REの実用化と量産化を実現された。こうした功績から、「REの生みの親」とも称された。1984年11月から社長、1987年12月から会長を務められ、1992年12月に経営の第一線から退かれた。

1985年自動車技術会技術貢献賞、1987年米国自動車技術会エドワード・コール賞、1991年RJCマン・オブ・ザ・イヤーなど数々の賞を受賞。2007年に日本自動車殿堂入りを果たされるなど、日本の自動車業界の発展に多大な貢献をされた。